

平成26年度
(第50期)
事業報告書

自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日

公益財団法人 国立京都国際会館

目 次

概況	・・・P. 2
I. 法人の概況	・・・P. 3
II. 事業の概況	・・・P. 4～21
III. 理事会及び評議員会等に関する事項	・・・P. 22～25
IV. 庶務事項に関する事項	・・・P. 26～27
V. 収支状況	・・・P. 28

概況

平成26年、待望のニューホールの増築計画が決まりました。この大型ホールは、平成30年度（2018年度）完成を目指し、準備が進められております。この整備によりわが会館は、ようやくグローバルスタンダードに近づきつつあり、「2030年にはアジアNo.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」という「日本再興戦略」（平成25年6月閣議決定）に、オール京都として寄与できる環境が整いつつあります。

当財団は、これを新たなビジネスチャンス的好機と捉え、これからも「日本における重要な国際会議の舞台であり続けるために」今後10年間に取り組むべき課題や目標を示した「国立京都国際会館中長期計画 2015—2024（素案）」を策定致しました。引き続き、平成27年は、そのアクションプランを立て、今後、前半5年、後半5年を見据えながら、信頼される「オンリーワン」の国際会議場を目指し、他では得難いサービスを心がけ、実行していきます。

また、耐震改修工事期間中は、制約がある中で、工事状況を迅速かつ正確に把握し、お客様にきめ細やかにご報告を重ね、概ねご理解を頂きながら進めてきましたが、2年間に亘る難工事もようやく無事に終了致しました。主要会議場におきましては、諸設備も充実し、より快適な会議環境をご提供できることとなり、平成26年11月から、皆様により安心・安全にご利用頂ける国際会議場としてキックオフを致しました。

他方、この間、工事対象外の会場の積極的なセールスにより収入増を図り、且つ、館全体の経費削減を奨励してきました。会議開催件数や収支の面では、残念ながら通常平均を下回ったものの、最終的には、当初予算より176百万円の増益（前年度比35百万円の増加）を上げることができました。

ハード面の充実とともに、人材育成と機動的な組織形成にも力を注いできました。館員には、今後の展望とビジョンをしっかりと持つよう促し、且つ、競争が激化する中、逞しさとしなやかさを備え、果敢に挑戦していくよう指導しております。

引き続き、戦略的な誘致活動の強化及びグローバルMICE戦略都市・京都の強みを活かし、主力である政府間・国際機関会議や学術会議等の国際会議開催件数の増加を図り、更に、企業ミーティング・インセンティブ等多様なニーズに合った取組みを拡大することにより、日本の成長戦略に寄与していきます。

I 法人の概況

1. 設立年月日

1966年（昭和41年）5月21日

2. 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- (2) 国際交流と日本文化の普及事業
- (3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

内閣府

5. 主たる事務所・従たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

従たる事務所：東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル419

II 事業の概況

「平成26年度業務運営推進計画」に基づき、以下の事業を実施しました。

1. 会議等の運営事業及び誘致状況

(1) 開催会議・催事一覧

①主な国際会議・催事

	会議・催事名	開催期間 (月.日)	参加人数 (名)
1	第37回日本眼科手術学会学術総会	1.17 ~ 1.19	3,500
2	公益社団法人日本青年会議所2014年度京都会議	1.23 ~ 1.26	14,000
3	KYOTO 地球環境の殿堂表彰式	2.22 ~ 2.23	1,000
4	第41回日本集中治療医学会学術集会	2.27 ~ 3.1	6,000
5	第114回日本外科学会定期学術集会	4.3 ~ 4.5	13,000
6	第18回世界気管支会議・第18回世界気管食道科学会議 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 第24回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会	4.13 ~ 4.16	3,500
7	第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4.17 ~ 4.19	2,000
8	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会	5.9 ~ 5.11	3,500
9	BNI ナショナルカンファレンス2014	5.22 ~ 5.23	800
10	第113回日本皮膚科学会総会	5.3 ~ 6.1	6,000
11	第50回日本肝癌研究会・第4回国際肝癌シンポジウム KYOTO	6.5 ~ 6.8	1,500
12	第15回国際伝熱会議	8.1 ~ 8.15	1,100
13	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム) 第11回年次総会	10.5 ~ 10.7	1,000
14	第87回日本生化学会大会	10.15 ~ 10.18	4,000
15	京都国際環境シンポジウム	11.5 ~ 11.5	1,000
16	第30回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11.1 ~ 11.1	3,400
17	第55回日本肺癌学会学術集会	11.1 ~ 11.2	4,000
18	第55回電池討論会	11.2 ~ 11.2	2,500
19	第6回太陽光発電会議	11.2 ~ 11.3	1,000
20	第70回日本弱視斜視学会 第39回日本小児眼科学会・アメリカ小児眼科斜視学会合同学会 第12回国際斜視学会	11.3 ~ 12.4	2,050
21	第43回日本免疫学会学術集会	12.10 ~ 12.1	3,000

②主な国内会議・催事

	会議・催事名	開催期間 (月.日)	参加人数 (名)
1	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会	2.1 ~ 2.2	4,000
2	第52回関西財界セミナー	2.6 ~ 2.7	600
3	ドリームバザール/京都B級ご当地グルメフェア	2.8 ~ 2.9	17,000
4	第28回京都府消防大会	2.9 ~ 2.9	2,000
5	第1回同志社校友会大懇親会	2.15 ~ 2.15	1,500
6	第13回日本再生医療学会総会	3.4 ~ 3.6	2,000
7	平成26年度診療報酬改定点数説明会	3.24 ~ 3.25	4,000
8	国際ロータリー第2650地区2013~2014年度地区大会	3.29 ~ 3.3	3,000
9	京都精華大学2014年度入学式	4.1 ~ 4.1	2,100
10	平成26年度公益社団法人京都府看護協会定時総会	6.21 ~ 6.21	800
11	洛中悠楽 2014年度 JOCP 全国大会	7.4 ~ 7.6	2,000
12	あすか会議 2014 10th Anniversary	7.5 ~ 7.6	900
13	平成26年度京都府PTA指導者中央研修会	7.11 ~ 7.11	1,300
14	第2回日本糖尿病協会療養指導学術集会	7.12 ~ 7.13	1,000
15	UA ゼンセン第3回定期大会	9.10 ~ 9.11	2,600
16	平成26年度日本内科学会生涯教育講演会 Aセッション第2回	9.21 ~ 9.21	1,500
17	平成26年度京都府戦没者追悼式	10.3 ~ 10.3	1,340
18	マツシマ モーターショー	10.1 ~ 10.1	1,500
19	古典の日フォーラム 2014	11.1 ~ 11.1	1,812
20	第52回全国小学校社会科研究協議会研究大会 京都大会	11.6 ~ 11.6	1,000
21	第二回 同志社校友会 大懇親会	11.8 ~ 11.8	1,500
22	学振175委員会10周年記念行事「太陽電池ミュージアム」	11.2 ~ 11.3	1,200
23	第55回日本視能矯正学会	11.3 ~ 11.3	2,000
24	第17回京都市PTAフェスティバル	12.6 ~ 12.6	4,000

(2) 主要な会議開催状況について

① 京都スマートシティエキスポ（平成26年3月26日～27日）

京都スマートシティエキスポが3月26日、27日に開催されました。26日は、京都府精華町・けいはんなプラザで、2日目の27日は会場を国立京都国際会館に場所を移し、記念講演、基調講演や分科会が行われました。この会議は、スペイン・バルセロナ市で平成23年から毎年開かれている世界会議で、日本では初開催となりました。

エキスポは今後、欧州、南米、京都の世界3地域で毎年開く予定です。



② 第114回日本外科学会定期学術集会（平成26年4月3日～5日）

第114回日本外科学会定期学術集会が、4月3日～5日までの3日間に亘って開催されました。「外科学の最前線－地域医療と高度医療の連携－」というメインテーマのもと、約12,000人の会員が参加されました。

また、インターナショナルセッションとして、医療のグローバル化について、ドイツ外科学会とのコラボレーション企画などが行われました。その他、特別講演も行われました。



③ 第11回 STS フォーラム（平成26年10月5日～7日）

第11回 STS フォーラム（科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム）年次総会が、10月5日～7日の3日間開催され、約100カ国からノーベル賞受賞者を

含む科学者や政府高官、企業経営者ら約千人が参加し、世界的視点から科学技術の将来や課題について議論されました。

開会式には安倍晋三首相が出席されました。また、閉会式では、皇太子殿下が「世界の英知を結集し、地球の未来、人類の持続的発展に向けて、科学技術を最大限にいかす方法を模索する努力が続けられることを望む」と挨拶されました。

最終日には、急速に拡大する情報通信技術について「安全性やプライバシー確保のための世界的ルールが必要」などの声明を採択し、閉幕しました。



④第30回京都賞（平成26年11月10日～12日）

科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した人を顕彰する「第30回京都賞」の授賞式が、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、政官財の各界、学会などから1,500人を超える招待者を迎え、開催されました。

受賞者には、京都賞メダル、ディプロマ（賞状）、賞金がそれぞれに贈られました。式典では祝典序曲や奉祝能、着物姿の子どもたちによる受賞讃歌が彩りを添え、受賞者を祝福しました。その後、受賞者が自らの歩みを語る記念講演会、部門ごとに受賞者を囲んでのワークショップが行われました。



⑤第55回日本肺癌学会学術集会（平成26年11月14日～16日）

11月14日～16日の3日間、第55回日本肺癌学会学術集会が開催され、「Alliance for Lung Cancer～肺がん克服への新たなステップ～」を開催テーマに、

海外を含む全国から4,655名の参加者を集め、開催されました。



(3) 重要会議の誘致状況

①誘致活動全般について

(ア) 積極的かつ戦略的な誘致活動の展開

夏期営業の一環として、約80件の大型医学会にターゲットを絞り、学会事務局を訪問し、情報収集に努め、激化する一方の国内競合に対する競争力を高めることができました。

また、平成28年に着工される予定の新ホール建設工事に関する概要説明を同時に行いました。

(イ) 国及び地元、関係機関、主催者とのより一層の連携強化

情報交換及び京都の国際コンベンション誘致推進のため、京都文化交流コンベンションビューローとの間で、定期的に会合を行い、その方策等を協議するなど連携を深めました。また、国際会議誘致に京都を挙げて取り組むことにより、関連産業のMICEへの取組み意識を高めることを目指してきており、その一環として毎年京都ブースを出展している国際ミーティングエキスポ（12月東京にて開催）において、京都ブース構成組織を増やすなど、業界の裾野を広げることにも務めました。

②重要会議の誘致状況について

(ア) 2016年 第21回日本緩和医療学会学術大会

欧米において先進的に研究が進められてきた患者のQOL（Quality of life：クオリティ・オブ・ライフ）向上を目指す緩和医療が注目されるようになり、会員数が急増する日本緩和医療学会は、学術大会への参加人数も増えており、2016年の参加者は10,000名が予想されています。

本来の開催スペースの不足に加え、新ホール建設に伴う工事等の様々な問題を克服するために、デジタルポスターセッションを提案するなど、会議運営につ

いての工夫・検討を主催者とともに進めています。また、新ホールオープン後は、大型医学会を誘致ターゲットとして捉え、平成31年開催予定の同学会を積極的に誘致するための活動を既に進めております。

(イ) 2019年 世界博物館大会

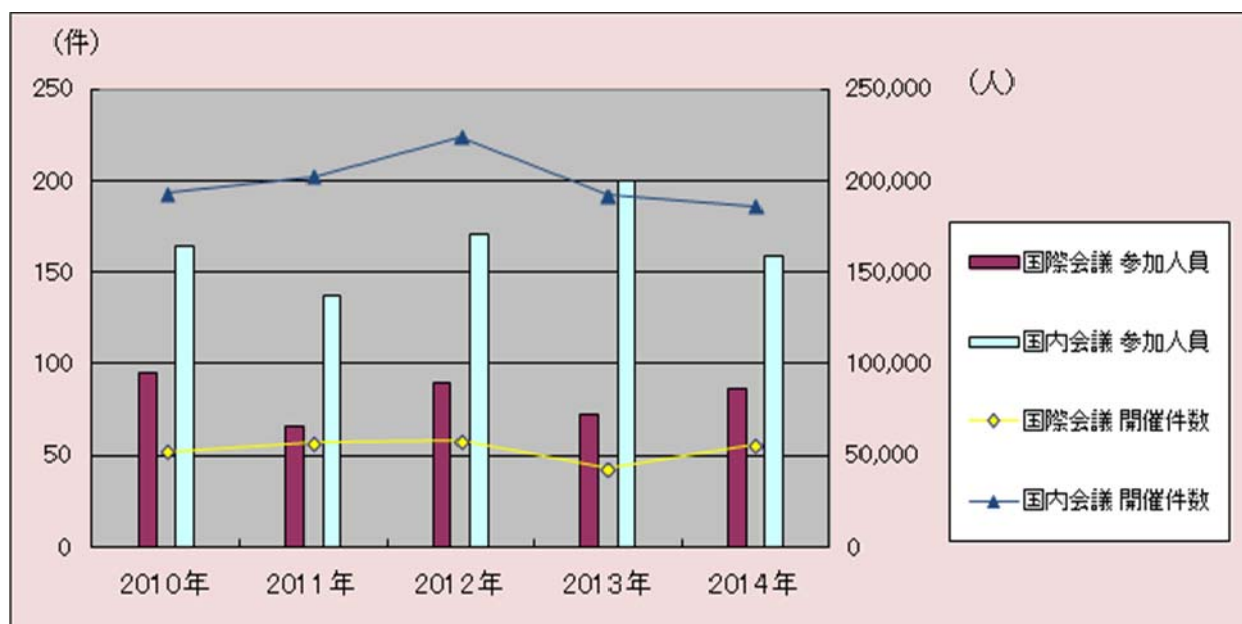
世界137の国及び地域から構成される国際博物館会議（ICOM：The International Council of Museums）は、パリに本部があり、3年に1度「世界博物館大会」を開催しています。オリンピックの前年に当たる平成31年に、日本文化を京都のまちから世界に発信する機会をつくることは、極めて意義深いことであり、京都府・京都市を始めとする地元関係機関と政府が一体となり、現在誘致活動を進めています。

米国と競合する中、平成27年6月に開催都市が決定されます。

(4) 会議開催状況に関するデータ一覧

①開催件数と参加者数

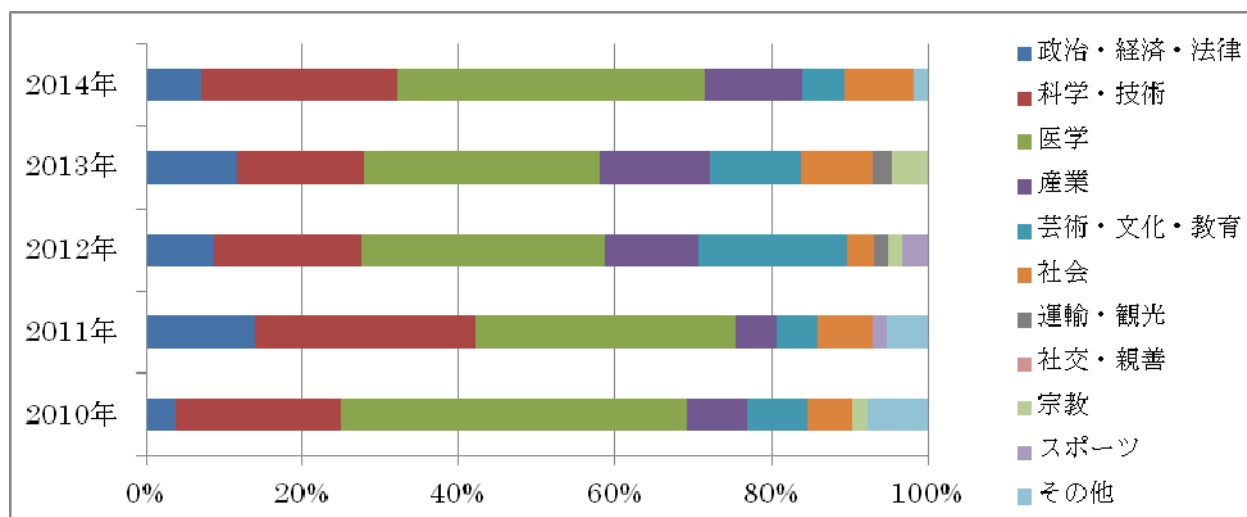
国際・国内	件数・参加人数	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
国際会議	開催件数	52	57	58	43	56
	参加人員	95,477	65,841	89,180	72,617	86,792
国内会議	開催件数	193	202	224	192	186
	参加人員	164,367	136,796	170,145	199,714	159,155
合計	開催件数	245	259	282	235	242
	参加人員	259,844	202,637	259,325	272,331	245,947



②開催会議のテーマ別分析

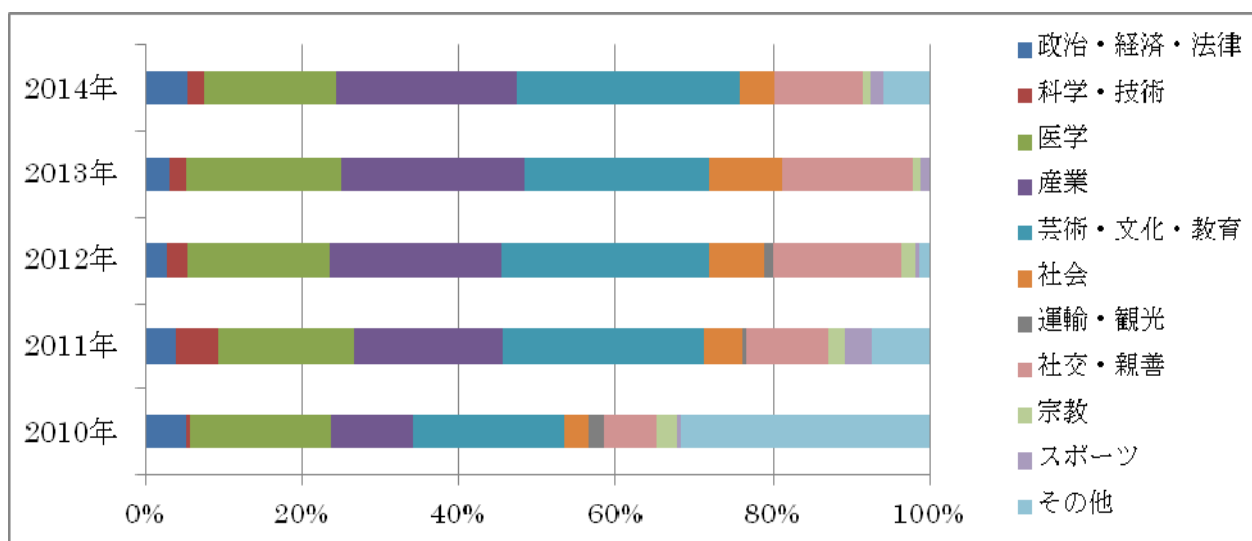
【国立京都国際会館で開催された国際会議の内容】

区分	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	(件)
政治・経済・法律	2	8	5	5	4	
科学・技術	11	16	11	7	14	
医学	23	19	18	13	22	
産業	4	3	7	6	7	
芸術・文化・教育	4	3	11	5	3	
社会	3	4	2	4	5	
運輸・観光	0	0	1	1	0	
社交・親善	0	0	0	0	0	
宗教	1	0	1	2	0	
スポーツ	0	1	2	0	0	
その他	4	3	0	0	1	
開催件数合計	52	57	58	43	56	



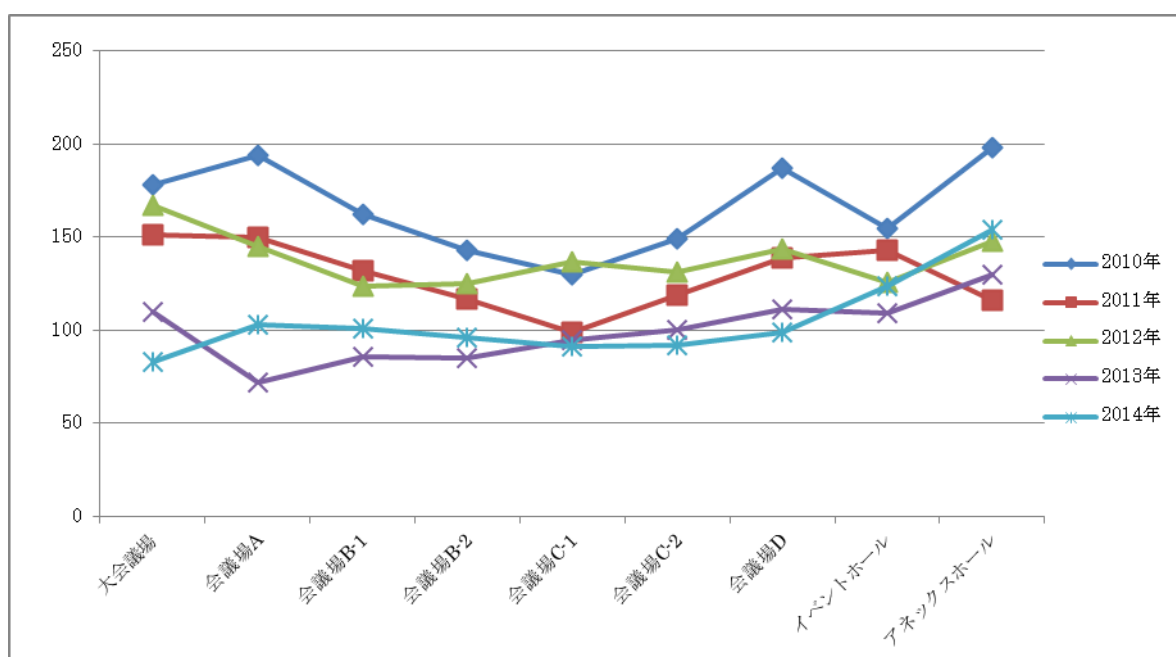
【国立京都国際会館で開催された国内会議等の内容】

区分	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	(件)
政治・経済・法律	10	8	6	6	10	
科学・技術	1	11	6	4	4	
医学	35	35	41	38	31	
産業	20	38	49	45	43	
芸術・文化・教育	37	52	59	45	53	
社会	6	10	16	18	8	
運輸・観光	4	1	2	0	0	
社交・親善	13	21	37	32	21	
宗教	5	4	4	2	2	
スポーツ	1	7	1	2	3	
その他	61	15	3	0	11	
開催件数合計	193	202	224	192	186	



③主な会場の稼働日数

会 場 名	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
大会議場	178	151	167	110	83
会議場 A	194	150	145	72	103
会議場 B-1	162	132	124	86	101
会議場 B-2	143	117	125	85	96
会議場 C-1	130	99	137	95	91
会議場 C-2	149	119	131	100	92
会議場 D	187	139	144	111	99
イベントホール	155	143	126	109	124
アネックスホール	198	116	148	130	154
合 計	1,496	1,166	1,247	898	943



④主な会場の稼働率

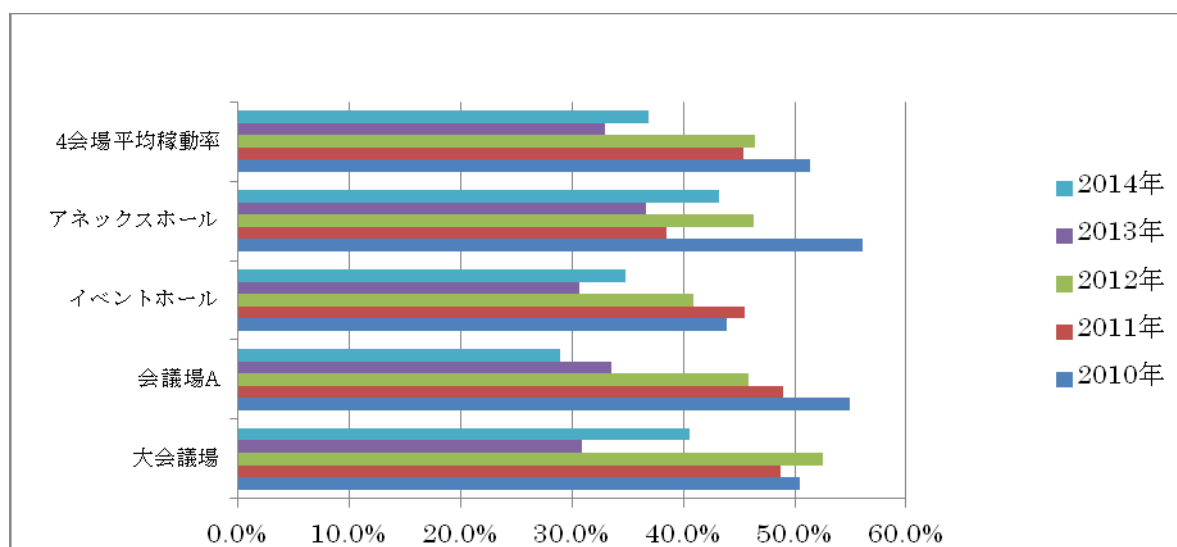
会場名	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
	稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率
大会議場	178	50.4%	151	48.7%	167	52.5%	110	30.9%	83	40.6%
会議場A	194	55.0%	150	49.0%	145	45.9%	72	33.6%	103	28.9%
イベントホール	155	43.9%	143	45.5%	126	40.9%	109	30.7%	124	34.8%
アネックスホール	198	56.1%	116	38.5%	148	46.3%	130	36.6%	154	43.2%

稼働率＝稼働日数÷（365日－休館日・※工事日）

※2013年の会議場Aは稼働率算出式の分母より耐震改修工事の日数141日を減じています。

※2014年の大会議場は稼働率算出式の分母より耐震改修工事の日数152日を減じています。

（イベントホールとアネックスホールは、耐震改修工事対象外）



(5) 自主企画事業の充実について

①ドイツ人映画監督の見た『国立京都国際会館』

ジャパン・プレミア上映会 「Beyond Metabolism (メタボリズムをこえて)」

平成26年4月27日(日)

この映画は、ドイツの原発解体ドキュメンタリー映画『アンダー・コントロール』で国際的に高い評価を得たドイツ人映画監督が、3カ月間京都に滞在し撮影した作品で、普段は見ることのできない国際会館の日常が、静謐で美しい映像で綴られています。また、平成19年に開かれた地球温暖化防止京都会議(COP3)の様子と京都議定書の採択に至るまでの緊迫した場内の舞台裏など貴重な映像資料も盛り込まれています。

映画上映の他は、ツアーも実施し、約400人が参加されました。



②宝松庵茶会

春：平成26年4月29日(火・祝)、秋：11月22日(土)

春の宝松庵茶会には、雨にも関わらず、例年通り約600名のお客様が参加され、「一期一会」の茶の湯の精神を通し、和やかなひと時を過ごされました。

秋の宝松庵茶会では、日ごとに紅葉の彩りが深まり心華やぐ晩秋の候、庭園を眺めながらゆったりとした1日を過ごしていただきました。



③感謝の夕べ2014 ～西洋と東洋が織りなす魅惑の風に乗って～
平成26年7月18日（金）・19日（土）

今年は、国交樹立90周年を記念してテーマ国をトルコ共和国として開催しました。アネックスホールをトルコ館と称して、トルコ料理の屋台やトルコと縁（ゆかり）のある和歌山県串本町のブースなどが並び、大勢の来場者で盛り上がりました。庭園のステージでは、トルコの民族楽器の演奏や舞踊もあり、花を添えました。最後は、夏の夜を彩るレーザーショーと花火で締め括られました。



④公共建築の長寿命化を考える
平成26年11月17日（月）

建築シリーズ第2弾として、「公共建築の長寿命化を考える」をテーマに、講演会と館内・庭園等見学会を実施しました。

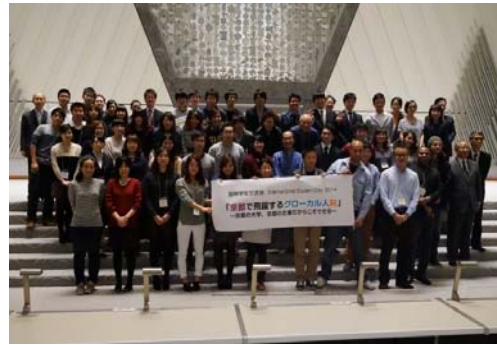
当日は、約300人の参加者にお集まりいただき、公共建築の抱える様々な諸課題について、ソフトとハードの両面から考える貴重な一日となりました。



⑤平成26年度国際学生交流会

「京都で飛躍するグローバル人財」～京都の大学、京都の企業だからこそできる～
平成26年11月22日（土）

京都で学ぶ外国人留学生、日本人学生、地元の企業・教育関係者が、「国際化」「地域貢献」「キャリア形成」などをキーワードに討論し、交流を深めました。基調講演に加え、ワークショップ形式による意見交換や交流会が行われました。



(6) 会館施設の整備及び拡充に向けた取り組みについて

①耐震改修工事及び施設整備

(ア) 耐震改修工事

当会館の建物の耐震性能については、平成 14 年度及び平成 18 年度に国土交通省による耐震診断が実施され、その結果、より高い耐震性能を確保するために耐震改修工事が必要と判断され、平成 16 年度から耐震壁の設置（約 60 ヶ所）や外壁 PC 瓦の改修、内装不燃化工事及び耐震工事に係る電気、機械設備等の改修工事が実施されました。

平成 25 年度は Room A 会議場、平成 26 年度には Main Hall など、当会館の中心部分の工事を経て、構造体の耐震改修工事が完了したことから、官庁施設の耐震安全目標であるⅡ類の耐震性能（注 1）が確保できることになりました。

（注 1）震安全性の分類をⅡ類とする建築物については、大地震後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標としており、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものです。それにより、建築基準法上必要とされる耐震性能数値を 1.0 とした場合、当館の耐震性能数値は 1.25 となります。

(イ) 施設整備

維持管理に係る整備と大会議場耐震改修工事完了に併せて、リニューアル感の創出を目的とした整備を実施しました。

【財務省普通財産維持費予算】

➤アネックスホール可動間仕切り改修工事

制御関係部品等のオーバーホールを実施しました。

➤吸収式冷温水発生機補修工事（1 台）

冷暖房用熱源装置の分解点検整備を実施（1台/4台）しました。

【当財団資産取得事業予算等】

- 営業推進部用ファイルサーバ及びセキュリティーサーバ入替工事
耐用年数の経過等（補修部品等の供給停止）により、ネットワーク上でファイルを共有する為のコンピューター機器を更新しました。
- Room C-1・C-2・E デジタル音響卓改修工事
経年劣化等が著しいことから更新しました。
- メインホール3kwクセノンピンスポット購入
大会議場耐震改修工事により4階旧映写室が投光器室して整備されることにより、投光距離が従来に比べ大幅に伸びたことから、長焦点・高出力ピンスポットライトを2台購入しました。
- 洗浄便座、自動給水栓改修工事
ネックスホール・イベントホール便所を会議参加者の利便性向上を目的として実施しました。
- 歩廊他各所塗装補修工事
地下鉄出口から正面玄関までの歩廊塗装面の経年劣化等に伴い実施しました。
- 館内各所壁面クロス貼り替え補修工事
Room E、102、103、104等の会議室内壁紙の経年劣化等に伴い実施しました。
- コンベンションシステムの改修（26年度～27年度の継続事業）
予約・精算関係のコンピューターシステム機能の向上を目的としたコンピューターソフトウェア等の更新を行いました。

②会館施設拡充計画にかかる最近の状況

施設拡充計画は、国の施行のもと、26年度は調査、基本設計を行い、今後、27年度実施設計を経て、平成28年3月に工事着工、平成30年度中の工事完成を目前に事業が進んでいきます。なお、本件については、会館内に編成したプロジェクトチームを核に、京都市とも緊密に連携した上で、国等との連絡調整に当たっています。

【事業概要】

事業名：国立京都国際会館展示施設（展示ホール 2,000㎡）
（展示ホール 2,000㎡を主要施設とする多目的展示施設
※地上2階建、延べ床面積約、4000㎡）
総事業費 33.0億円

(7) 広報の充実について

①広報誌の発行

聞かれた国際会館をめざして、当会館の情報発信と会議誘致のための広報誌「ICCKyoto」を日本語版年4回、英語版年1回を発行しました。

②小学生を対象とした見学会の開催

未来のグローバル人材育成に貢献するため、昨年につき近隣の小学校を対象に見学会を実施しました。

(8) コンプライアンスについて

①契約手続きの透明性の一層の確保について

本年9月に設置した「調達審査委員会」を定期的を開催するなどのことにより、契約手続きの一層の透明性の確保に努めています。

【調達審査委員会の開催状況】… 調達審査委員会は平成26年9月に設置

回 ・ 日	内 容
第1回 平成26年9月24日	運営管理業務委託契約の平成27年度以降の契約手続き方法についての審議(監事出席)
第2回 平成26年10月31日	個別案件についての審査(業務委託契約の方法の見直し)及び資産取得計画についての審議

②規程の整備状況について

平成23年3月の公益法人化以降、各種規程の制定や見直しに鋭意取り組み、平成26年度における「調達規程」、「情報セキュリティ管理規程」の制定により、ほぼ規程の整備は完了しました。今後も、国立の会議場施設を運営する公益財団法人として、一層のルールに準拠した業務運営に取り組めます。

(9) 人材育成について

①情報交換会の開催

MICE 及び国際関連分野や社会・経済・文化等各業界のトップクラスの有識者の方々を講師の方々をお招きして勉強会、意見交換会を実施することにより、知識の習得と情報共有を図りました。また、プレゼンテーションのトレーニングの一環として、職員による MICE 関連会議出張報告等を積極的に行いました。

②研修・セミナーの実施

全職員参加型の職員研修を平成26年度より開始しました。第1回目は、「管理職の部下指導、マネージメント能力、一般職員のコミュニケーション能力及びチームワークを向上させることを目的として実施。第2回目は、その結果、成果を踏まえ、管理能力を更に向上させることを目的として実施しました。

③加盟団体主催国際会議等への参加

業界全体の情報収集、ネットワーク拡大及び若手の人材育成のため、11月にトルコで開催されたICC A総会に若手職員を派遣しました。また、マーケティング、誘致営業、施設管理の手法等についての知識取得のため、国内の施設協議会等加盟団体主催の共同研修に職員を積極的に派遣しました。

(10) 危機管理体制の強化について

①緊急時対応ガイド英語版の整備

従来 of 緊急時対応ガイドに、想定すべき災害項目を追加し、英語版ガイドを作成しました。

②英語を取り入れた防災訓練の実施

英語も取り入れ、国際会議開催中の地震及び火災発生を想定した訓練を実施しました。また、職員や関係者向けに、海外からの来館者に対する避難・誘導に関する、簡単な英語表現をまとめた資料を作成しました。

③災害対応型自動販売機の設置

非常時に備えるため、災害対応型自動販売機を2台設置しました。今後も状況を見ながら追加導入していく予定です。

(11) 国際貢献（ミャンマー国際会議場訪問 ―新たな国際貢献のはじまり―）

平成26年ASEAN議長国として、主要国首脳会議やASEANを中心とした関連会合等、数々の国際会議を成功裏に終えたミャンマー連邦共和国を昨年9月に訪問しました。国立京都国際会館の半世紀に及ぶ会議場運営のノウハウを提供することを通じて、ミャンマー国際会議場(MICC)の管理運営に貢献することは、国立の国際会館としての大きな役割と考えています。今後、MICCの職員が会議場運営を持続可能とできるよう、国際会議運営の全体の流れ・ロジに関するノウハウを支援していく予定です。



(12) その他

①環境マネジメントシステム（KES）の認定の取得

京都議定書採択の地として、環境に配慮した会議場を目指し、環境マネジメントシステム（KES）の認定を取得しました。認定取得要件とされている管理項目について、引き続き認定の条件を下回らないよう各種の取り組みを行っています。

②カスタマーサービス向上を目的とした会館利用者アンケートの実施

館内各所に会館利用者（一般利用者）用アンケートボックスを設置し、利用者の声を収集しました。要望等に対しては、関係部署において検討して順次改善を図っています。

2. 「中長期計画」について

平成26年4月に、当財団の職員によるプロジェクトチームを立上げ、国立の国際会議場としてのあるべき姿を見据えつつ、今後10年間に取り組まなければならない課題や目標について、ディスカッションを重ねた結果、別添の「国立京都国際会館 中長期計画2015-2024」骨子を策定しました。今後は、この計画に掲げた目標や課題を達成するための具体的な行動指針であるアクションプランの策定（前半5年、後半5年に区分）に向けて取り組んでいきます。

Ⅲ 理事会及び評議員会等に関する事項

1. 理事会及び役員に関する事項

(1) 理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第99回 理事会	平成26年3月10日 午前11時～12時 会館510会議室	第1号議案 平成25年度事業報告及び決算の件 第2号議案 評議員会招集の件 報告事項 (1) 施設拡充にかかる最近の状況について (2) その他
第100回 理事会	平成26年12月2日 午前11時～12時30分 会館C-2会議室	議案 平成27年度事業計画及び収支予算の件 報告事項 (1)平成26年度業務報告事項 ①重要会議の誘致状況及び平成26年度営業活動について ②会館施設の整備及び拡充に向けた取り組みについて ③コンプライアンスについて ④人材育成について ⑤国際貢献について ー途上国国際会議場への支援活動ー (2)「中長期計画」について

(2) 役員の変動

氏名	異動年月日
石田 隆一	平成 26 年 3 月 24 日 辞任
稲盛 和夫	平成 26 年 3 月 24 日 重任
村田 純一	平成 26 年 3 月 24 日 重任
木下 博夫	平成 26 年 3 月 24 日 重任
門川 大作	平成 26 年 3 月 24 日 重任
立石 義雄	平成 26 年 3 月 24 日 重任
山田 啓二	平成 26 年 3 月 24 日 重任

(3) 役員氏名

※理事は五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	稲盛 和夫	理事	堀木 エリ子
副理事長	村田 純一	理事	堀場 厚
常任理事	木下 博夫	理事	松下 正幸
理事	井上 正幸	理事	松本 紘
理事	上村 多恵子	理事	山岡 義生
理事	門川 大作	理事	山田 啓二
理事	立石 義雄	監事	大宮 正
理事	谷野 作太郎	監事	西田 憲司

理事長 1 名 副理事長 1 名 常任理事 1 名 理事 11 名 監事 2 名 計 16 名 (平成 26 年 12 月末日現在)

2. 評議員会及び評議員に関する事項

(1) 評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会 議 の 目 的 事 項
第 23 回評議員会	平成 26 年 3 月 24 日 午前 11 時～12 時 会館 510 会議室	第 1 号議案 平成 25 年度事業報告及び決算の件 第 2 号議案 任期満了となる理事の選任の件 報告事項 (1) 施設拡充にかかる最近の状況について (2) その他
書面による決議	平成 26 年 4 月 15 日	理事長、副理事長、常任理事の選任の件

(2) 評議員の異動

異動なし

(3) 評議員氏名

※五十音順

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
議 長	明石 康	評 議 員	坂本 吉弘
評 議 員	阿南・ヴァージニア・史代	評 議 員	千 宗員
評 議 員	池坊 由紀	評 議 員	千 容子
評 議 員	井村 裕夫	評 議 員	塚本 稔
評 議 員	内海 善雄	評 議 員	手嶋 龍一
評 議 員	大倉 治彦	評 議 員	寺島 実郎
評 議 員	小倉 和夫	評 議 員	中尾 一和
評 議 員	柏原 康夫	評 議 員	服部 重彦
評 議 員	茅 陽一	評 議 員	松山 良一
評 議 員	小村 武	評 議 員	山下 晃正
評 議 員	齊藤 修	評 議 員	吉村 彰彦
評 議 員	斉藤 行巨		

評議員 計 23 名

(平成 26 年 12 月末日現在)

3. 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

(1) 役員等候補選出委員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第3回 役員等候補選出委員会	平成26年2月10日 午前11時～12時 会館103号室	議案 任期満了となる理事の後任候補者選出の件

(2) 委員の異動

異動なし

(3) 委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員長	明石 康
委員	井村 裕夫
委員	小村 武
委員	齊藤 修
委員	塚本 稔
委員	服部 重彦
委員	山下 晃正

委員長1名 委員6名 計7名（平成26年12月末日現在）

IV 庶務事項に関する事項

1. 施設の管理再委託契約に関する事項

当公益財団法人と京都市が締結している管理再委託契約の施設の内容は次のとおり。

(注：国と京都市との間で国有財産管理委託契約を締結)

区 分	種 目	名 称	数 量	価 格
土 地	宅 地		156,096.77 m ²	4,897,485,158 円
立 木 竹	樹 木		798 本	22,930,077
建 物	事務所建	会 議 場	14,693.54 m ²	2,189,119,764
			37,786.48	
	事務所建	展 示 場	4,860.69	452,369,785
			7,976.58	
	雑 屋 建	車 寄	126.11	4,809,554
			126.11	
	雑 屋 建	ポンプ室	189.93	11,565,405
			189.93	
	雑 屋 建	渡 廊 下 (連絡歩廊)	449.76	38,360,426
			449.76	
	雑 屋 建	渡 廊 下 (連絡歩道橋)	188.24	43,510,685
			188.24	
	雑 屋 建	渡 廊 下 (既設地下鉄 出入口上屋)	9.33	3,462,921
			9.33	
車 庫 建	ごみ容器置場	16.43	355,118	
		16.43		
計		20,534.03	2,743,553,658	
		46,742.86		
工 作 物			一 式	1,751,646,246
	合 計			9,415,615,139

2. 休館日に関する事項

平成26年度中に、次の日を休館とした。

1月 1日(水)～ 4日(土) 4日間 年始休館
12月 28日(日)～ 31日(水) 4日間 年末休館

3. 事務局職員に関する事項

区 分	男	女	合 計
館長(常任理事)	1	0	1
事 務 局 長	1	0	1
副 事 務 局 長	1	0	1
総 務・企 画 部	8	5	13
施 設 部	6	0	6
営 業 推 進 部	13(1)	8	21
合 計	30	13	43

(1):うち1名は出向者(平成26年12月末日現在)

V 収支状況

1. 平成26年度収支状況について

収入については、メインホールを中心とする耐震改修工事の影響による会場使用制限がある中で、工事情報の迅速・正確な把握に努め、予約台帳管理の精緻化を図り、アネックス・イベントホール等工事の影響の少ない施設を中心に積極的な誘致活動を展開する等収入増に取り組んだ結果、経常収入は1,269百万円（前年度比35百万円の増加、予算比では176百万円の増加）となりました。

支出については、会場設営、清掃、館内案内、警備、電気機械保守等の年間委託契約費を平成25年度に続き各10%程度削減する等経費削減に努めた結果、経常費用の合計は1,370百万円（前年度比39百万円の増加、予算比では2百万円の減少）となりました。

上記の結果、平成26年度の経常収支は101百万円の損失（前年度比4百万円の減益、予算比では178百万円の増益）となりました。

2. 損失補填資金の取崩と繰越金の振替えについて

平成25年度及び26年度における耐震改修工事の影響による損失に備え、平成24年度決算において、損失補填資金として680百万円を積み立てました。

平成25年度に104百万円、平成26年度に115百万円を取り崩し、公益事業の赤字に充当した結果、損失補填資金残高は461百万円となりました。

平成26年度決算において、損失補填資金残高461百万円を繰越金に振替えることとし、従前の繰越金346百万円にこれを加えると、繰越金残高は807百万円となりました。

平成27年度に、この繰越金から、計画修繕資金100百万円、資産取得資金39百万円、特別修繕資金30百万円、合計169百万円を振り替えます。